

△答 山内鉄吉 (本部)

(要旨) 過去の日本の労働運動の歴史を振り返るに、  
我々は定型的な意見の相異から起因してある部分に於いては、  
我々の間に固執し、其の指導方針にこそはつては可なり、  
指導方針を以て永く不変固定化し、之を解決し得る可なり、  
之を適化せしめ、之の柔軟性と融通性を認めなければ  
ならぬ。(中略)

尤も我々は労働者が戦線統一の為の唯一無二のもの  
あるとは思ふまい。戦線統一の為の統一というものは  
加蓋し、其の内部にあつては加蓋の示さざる様子を  
右翼偏向及び其の固定化とす。特来、上におつた  
戦線統一の完成すべきに必要とする事を信ずる。云々  
(後略)

△答 加藤勤十 「連合する労働者の主義とは異なる  
社会民主主義を認める事は、なるべからぬ。」

△答 山内鉄吉 「連合の社会主義は主義の表明は  
就この通りと理解せよ。」

休憩 (午後五時)

再開 (午後七時十五分)

△議長 大矢名三

△質問 山内鉄吉の「高松 世襲せしむる可なり」  
に議長、大矢名三として「連合を以て議論混乱す」

休憩

再開 (午後七時三十分)

△議長 山内鉄吉

△議長 山内鉄吉 (開会式) と山内鉄吉との間に「資格問題」就